



習慣の大切さ

子どもの健やかな成長には、乳幼児期から家庭で規則正しい生活リズムを習慣化することが大切です。乳幼児期は基本的な生活リズムや生活習慣を形成していく大切な時期といわれていて、例えばこの時期に「おはよう」「ただいま」「おやすみ」などのあいさつを家庭で習慣にしていれば、子どもは自然とあいさつができるようになります。

これは、乳幼児期が物事を感性で捉える時期であるからです。一方、あいさつをすることが定着しないまま9歳を越えると、子どもは物事を理論的に考えようとするため、「なぜあいさつが必要なのか」から伝えていかなければなり

ません。これはあいさつだけに限ったことではありません。言葉づかいや人を思いやる気持ちなどの「道徳心」も乳幼児期に形成されます。「良いこと」「悪いこと」を正しく教育する習慣があれば、子どもは自然と善悪への理解と判断ができるようになります。

子どもにとって一番身近な大人は親です。子どもは、たくさん時間を親と過ごし、親を見て成長します。つまり、言葉で「早寝早起き」を注意するのではなく、家庭のルールとして「早寝早起き」に取り組み、家庭で決めたルールを親がしっかり守ることで、子どもはルールを守ることの大切さを学ぶとともに、「早寝早起き」の習慣が身についていくのです。

子どもが正しい生活リズムやマナーを身につけていくためには、一つひとつを家庭のルールとして決め、習慣化し、守っていくことが大切です。子どもの健やかな成長のためにも、子どもだけに守らせるのではなく、家族全員で取り組み、継続し、習慣化していきましょう。

▽問い合わせ 社会教育係
(☎2223局3546)

特別支援教育便り

▽問い合わせ 学校教育係
(☎2223局3547)

インクルーシブ教育の実現に向けて

インクルーシブ教育とは、子どもたち一人ひとりが、個性を持ち、多様であることを前提に、障がいのある無にかかわりなく適切な配慮(合理的配慮)の中で、その可能性を最大限に発揮し、社会参加に向けて学んでいく教育です。

では、合理的配慮とは、どんなもののなのでしょう。

分かりやすい事例があるので紹介します。

書籍「五体不満足」を執筆した乙武洋匡さんを知っていますか。乙武さんは先天性四肢切断(生まれつき両手両足がない)という障がいがあり、移動などは電動車いすを使用しています。その乙武さんの子どもの頃のエピソードを紹介します。

乙武さんは、小学校時代の休み時間、皆と一緒にサッカーや野球、ドッジボールなどをしていました。何でもチャレンジする乙武さんで

すが、手足が不自由で参加しにくいことが想像できます。しかし、そこでクラスの友だちが考えたのが「オトちゃんルール」です。

野球は、乙武さんが打ったときに、友だちが代わりに走る。内野と外野の間に線を引き、その線を越えたらホームランにする。サッカーは、乙武さんがシュートを決めたら3点、ドッジボールは、乙武さんは常に外野で、ボールを持ったたら、内野が半径3メートル以内に近づくななど。

クラスメイトは「できない、無理」と決めつけるのではなく、「どうしたら一緒にできるかな」と、考えたのです。それは、立派な合理的配慮です。

合理的配慮の根底は、「思いやり」「相手の立場に立つ」ということだと思います。価値観や考え方が多様化するこれからの時代だからこそ、インクルーシブ教育の実現が望まれることでしょう。

山鹿小学校 古市早苗
※【乙武洋匡・大学在学中に出版した「五体不満足」がベストセラーに。卒業後、スポーツライターとして活躍。元小学校教諭。元東京都教育委員。現在は乙武義足プロジェクトを進行中】

芦屋中学校

生徒会のスローガンは

『挑戦・創造・発展～高め合う芦中～』

●入学式 4月10日

新入生 126 人を迎えました。真新しい制服に身を包み、少し緊張した面持ちでしたが、新入生代表の言葉では、「芦中の輝かしい伝統をさらに発展させるよう努力することを誓います！」と凜とした姿を見ることができました。その言葉を受け、新2・3年生は校歌と応援で新入生をあたたく迎え、これから全校生徒 379 人でよりよい芦中を築いていこうという雰囲気が強く感じられました。



●生徒会入会式 4月13日

オープンスクールとしてたくさんの保護者に参観して頂いた中で行われた新入生の生徒会入会式。生徒会役員から校訓や専門委員会の活動の説明、各部活動から練習や取組の紹介が行われたあと、新入生全員から『一人ひとりが互いの良さを認め、自分の良さを発揮できる学年』、『一人ひとり

が勉強や部活動、学校行事に精一杯取り組む学年』、『一人ひとりが集団の一員として役割や責任を果たす学年』を目指します」と大きな声で宣言する姿がありました。部活動紹介では、先輩たちの面白いパフォーマンスに1年生は笑顔を見せていました。少し緊張もほぐれたのではないのでしょうか。

●体育大会 5月19日

新元号が始まった5月は10連休に伴い、練習時間が短くなりましたが、芦中の伝統である3年生が後輩をリードするブロック制で体育大会を見事に成功させることができました。ブロック長や応援団長は毎日の練習計画を立て、大きな声でブロックを動かしていました。閉会式後の最後のブロックミーティングではリーダーたちの「これまでついてきてくれて、ありがとう！」という言葉にどのブロックも、学年・男女問わず涙を流す姿がありました。体育大会が終わっても皆さんはずっと仲間ですよ……。



(教頭 石松誠)

学校での出来事を先生たちがお届け!!

山鹿小学校

学校教育目標

心身ともに健康で自ら学ぶ子どもの育成

●本年度の重点目標 学力向上と健康教育の推進 そのために・・・

①学力向上プログラムの推進

- 基礎・基本の確実な定着と活用する力を育む授業づくり
- 学力検証・向上システムの機能化
- ICTを活用した学習の実施

②オンリーワンプロジェクトの推進

- 特別の教科 道徳の実践
- 自主的実践的態度を育む特別活動の推進
- 人権教育・特別支援教育の推進

③体力向上プロジェクトの推進

- 体育科を中心とした健康教育の推進
- 山小パワーアップの充実

④統一と徹底（組織指導体制の確立）

- リーダーを中心とした推進委員会の計画的実施
- 研究発表会に向けた校内研修の充実

本年度も「山鹿小 みんなの合言葉」は、

や やる気

ま まじめ

が がまん です。



ハッピーデイ（全員が休まず登校した日）・歩いて登校・食缶ゼロ（給食の食べ残しゼロ）も継続して取り組みます。

早寝推奨は、児童会活動・PTA活動と連携して取り組んでいきます。

(教頭 野口浩)